

＜図書館 Q&A ハゲタカジャーナル編＞

Q1. ハゲタカジャーナルとは何ですか？

A1. 論文投稿料などの金銭の搾取を目的としたジャーナル、出版社を指します。

Q2. ハゲタカジャーナルの特徴はありますか？

A2. 以下のような特徴がありますが、年々手口が巧妙化し、見分けるのは大変困難です。

- ・投稿料金(APC)・・・事前に具体的な金額を明示しない。(金額の高低ではない)
- ・査読・・・ほぼ行わない。
- ・出版スピード・・・以上に早い。(例:2週間。通常は3か月～1年程度かかる)
- ・長期保存・・・していない。(コストがかかるため)
- ・品質管理・・・していない。(そのため、論文に稚拙なスペルミス、文法ミスがある)
- ・連絡先・・・非表示・偽装。(HP のみの場合が多い)
- ・識別子・・・DOI がない。(偽の識別子:SOI などを使用)
- ・評価指標・・・誤認されるような指標を表示。(例:Journal Factor, Global Impact Factor など)
- ・広報手段・・・スパムメールや Google 検索で上位に表示して目にとまるように操作している。
- ・APC の請求時期・・・受理(アクセプト)より前に請求。(投稿からすぐ請求書を送る)
- ・ジャーナルタイトル・・・正規に似せる。
- ・索引情報・・・著名なデータベースに索引づけられていると、虚偽の情報を載せる。
- ・業者・・・実在しない
- ・巻号・・・発行予定の号が未発刊、バックナンバーがランダム



Q3. 正当なジャーナルを判断する要素は何ですか？

A3. 主要なDBに索引されている、編集委員の情報が提供されている、DOAJに収録されている、等が見分ける判断要素となります。

1つの基準で見分けることは難しいので、多角的にチェックをすることがハゲタカジャーナルの対策には必要になります。

Q4. 具体的なチェック方法を教えてください。

A4. 論文投稿前に、以下の4つの方法で多角的にチェックを行ってみてください。

＜セルフチェック＞

・Think Check Submit・・・出版社、関連団体が立ち上げたサイト。設問に答えて、ハゲタカを振るい落とす有名なサイトです。(日本語対応)→<https://thinkchecksubmit.org/journals/japanese/>

<ブラックリストでチェック>

・Beall's List・・・2017年1月に閉鎖後、匿名で引き継がれています。閉鎖されたサイトであることを念頭に使用してください。→<https://beallslist.net/>

(* 参考: Cabell's List(有料)・・・信用性が高く、更新もされている。

→<https://www2.cabells.com/about-predatory>)

<ホワイトリストでチェック>

・DOAJ・・・英国の非営利法人。約18000件のフルOAジャーナルを収録。ここにあるジャーナルはハゲタカではない可能性が高いと考えられています。

→<https://doaj.org/>

・Master Journal List・・・クラリベイト社提供。無料。アカウントを登録して利用。Web of Scienceに収録されているかを調べられます。

→<https://mjl.clarivate.com/home>

<その他>

・Cabell's リストを採用している EBSCOhost や MEDLINE に収録されている雑誌か。

・採録基準が厳しい SCOPUS や Web of Science に、搭載されているか

以上